

光明

こうみょう

春

第222号

特集1

仏像修復 彩色の世界

特集2

お彼岸 × 六波羅蜜

ますだあけみの知好楽

『般若心経』やわらか手引き
まかはんにゃ～

しん こん しゅう ぶ ざん ほん
真言宗豊山派

光明

目次 春
第222号

03 | 特集1 仏像修復～彩色の世界～

13 | 『般若心経』やわらか手引き
まかはんにゃ～②

15 | 弘法大師の言葉⑪ 木村秀明

17 | 特集2 お彼岸×六波羅蜜

21 | 作品募集 仏さまを描いてみよう!

23 | 仏教童話⑬⑬
帰ってきた観音さま

29 | 仏教はじめてヒストリー⑦

31 | ヘルシーうれしい 精進料理⑳

33 | ますだあけみの知好楽

35 | 作品紹介 仏さまを描いてみよう!

36 | こうみょうパズル

40 | 総本山長谷寺伽藍修復事業 志納金寄付者ご芳名

41 | 総本山長谷寺伽藍修復事業 浄財ご寄進のお願い



表紙写真
小山田有美 彩色作品



令和5年は弘法大師ご生誕1250年です

2 結論を先に『般若心経』

観自在菩薩、深般若波羅蜜多を行じし時、五蘊は皆空なりと照見して、一切の苦厄を度したまえり。(五蘊の蘊は「集まり」の意)



弟子の中で、智慧(般若)に関して右に出る者がいない舍利子。仏さまは彼に話し始めます。

「観自在菩薩が深い般若の修行をしていた時のことだ。私たちは物を見たり、音を聞いたり、何かに触れたりして、それが何かを知り、何らかの決断をしているけれど、それらの体や脳の働きはいつも同じわけではなく、変化することに気づいたのだ。

同じように、すべては変化してしまうので、『これはこういうもの』という変わらない実体はない——それがわかった観自在菩薩は、心にとらわれがなくなり、おだやかな心になったのだ」

人はどうやって生きているのか

本誌『光明』を目で見ると、その像が網膜に映ります。その映像は視神経で脳に送られ、知識を総動員して「これは豊山派の季刊誌で、読みやすい記事がたくさん載っている」とわかります。

人間はこのようなことを行って生きていることを、昔のインド人が発見しました。

- ① 物体(肉体)があり、② 目や耳などの外の情報を受ける器官があり、③ その器官が受けた情報が網膜や内耳へ伝わり、④ そこからさらに脳へ送られ、⑤

知識を総動員してそれが何か、どう使えばいいのかなどを判断するというのです。この五つを五蘊と言います。

私たちはこうした五つの作業をして毎日生きています。本を読むのも、ドアを開けるのも、食事をするのも、こうした作業を行っているのです。

そして、観自在菩薩は、この五蘊はどれも空だとわかったというのです(空は、ここでは「変化してしまう」「条件が仮に集まっているだけ」としておきます)。

縁起と諸行無常と空

お釈迦さまが覚ったことの一つに、物事はさまざまな縁が集まって結果になるという「縁起」という法則があります。

縁が変われば、結果も変わります。この、変化してしまう法則を「諸行無常」と言います(「行」は作られたものという意)。変化していく縁によって結果も変化し、同じ状態を保つことはありません。

ここから、どんなものにも、どんなことも不変の

実体はないという「空」の考え方が誕生します。ムズカシイ……ですね。

法則を土台にして心おだやかになる

仏教がこうした法則を探究するには理由があります。ある結果になったのには縁(理由)があるのに、私たちは結果ばかりに目が奪われがちです。そうなった縁を見極めれば「それでは仕方がない」と、心おだやかになれることがたくさんあるのです。

波打ち際に作った砂山は、何もしなければ諸行無常の法則によって、波に削られ崩れていきます。もし砂山を保ちたければ、砂を補充しつづけるしかありません。友情や家庭の和も海辺に作った砂山のようなものでしょう。崩さないためには、変化していく状況に対応していく覚悟が必要なのです。

『般若心経』は冒頭で、今回とりあげた部分を説明抜きでスタートさせてしまうので、読者はとまどいます。しかし、この後に観自在菩薩がたどった考え方が説明されていきます。

どうぞご安心の上、次回もお楽しみに。

「院殿号」

— 足利尊氏 —

そこには、武家としての誇りがこめられていた。

そもそも戒名かいみょうとは、仏教に帰依し、仏門に入る者が、新たに授かる仏弟子ぶつでしとしての名前です。それを漢字2文字にするのは、昔も今も変わりません。

確かな成仏を願って、故人に戒名が授与されるようになると、2字の戒名に、道号どうごう、位号いごう、院号いんごうや院殿号いんてんごうが加わりました。そうして長くなった文字全体も、やはり、戒名と呼んでいます。

平清盛たいらのきよもりは、仏教を篤く信仰しました。戒名は、浄海じようかいの2字です。清盛の甥おいにあたる平敦盛たいらのあつむねは、弘法大師が唐から持ち帰ったと伝える「青葉の笛」を愛用したことで知られています。戒名は空顔がくれんせい隣清りんせいで、隣清の2字が本来の

戒名となり、空顔は道号です。

中国では、成人すると、本名とは別の名前、字あざなを名乗りました。二つ目の名前となる字の風習から生まれたのが、戒名に付属する道号です。

源頼朝みなもとのもちあきの戒名は、武皇ぶおう嘯厚大禪門せんとんといえます。武皇が道号、嘯厚せんとん（厚を原や源とする説もある）が戒名、そして、大禪門は位号です。位号は、大切な人を丁寧と呼ぶために用いた、と考えられます。大禪門は「仏門に入った男子」という意味の大禪定門だいぜんじょうもんを、略した言葉です。

室町幕府を開いた足利尊氏あしかがたかうじの戒名は、等持院殿仁山妙義大居士とうじいんてんじんざんぎょうだいきです。仁山にざん（道号）、妙義ぎょう（戒

名）、大居士だいこし（位号）の上にある等持院殿は、院殿号に相当します。

天皇の称号には院号があり、嵯峨天皇の嵯峨院が、そのはじまりでした。天皇や貴族の院号に対し、武家が好んで用いたのが、院殿号です。それを真つ先に名乗ったのは、尊氏でした。以後、歴代の足利將軍や徳川將軍が、踏襲ふみしりやうしています。

武家の時代が終わると、社会に貢献した偉大な人や、菩提寺に格別の貢献をした方に、院殿号が授与されました。

日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹の戒名は、無礙光院殿照普慈濟秀樹大居士むがいこういんてんしょうぼくじしゆじゆくしゆじゆだいきです。弘法大師を「万能的な天才」

と評した湯川は、自身も、理論物理学から東洋思想に至る幅広い分野に深い素養をそなえ、和歌や書にも通じていました。湯川の戒名は、万能の天才にふさわしく、輝かしい文字の連なりとなっています。

ますだあけみの

知好楽



増田明美(ますだ・あけみ)

スポーツジャーナリスト
大阪芸術大学教授

1964年、千葉県いすみ市生まれ。成田高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立する。現役引退後、永六輔さんと出会い、現場に足を運ぶ“取材”の大切さを教えられ大きな影響を受ける。現在はコラム執筆の他、新聞紙上での人生相談やテレビ番組のナレーションなどでも活躍中。2017年4月～9月にはNHK朝の連続テレビ小説「ひよっこ」の語りも務めた。日本パラ陸上競技連盟会長、全国高等学校体育連盟理事、日本障がい者スポーツ協会理事。

令和4年寅年がスタートし、年度も新しくなりました。新入生や新入社員の方もいらっしやると思います。強い信念をもって勇敢に立ち向かう一年にしたいですね。新型コロナウイルスに対してもしっかり対策をしたうえで、少しずつ日常を取り戻していきたいものです。

さて、私の日常と言えば、何といつても旅行なんです。仕事有一段落すると行きたくなるのが京都。京都駅近くのホテルにチェックインすると、明るいうちにジョギングをします。まずは塩小路通りを東へ。鴨川を渡って三十三間堂を左手に見ながら進み、東大路通りにぶつ

かったら左へ。右手に見えてくるのが智積院。総門の前で手を合わせた後、女坂を上って智積院の周りを時計周りに一周した後、南下して東福寺方面へ向かったり、北上して清水寺や知恩院へ向かったり。景色を楽しみながらジョギングするのが、最高のリフレッシュです。京都

はどこを走っても美しく、悠久の歴史が感じられていくらだつて走っていられます。そう、日課のジョギングは京都を長く走るための脚づくりと言っても過言ではありません。俳句も趣味なので、たまにジョギング中の発見や感動を5・7・5の器に生けています。(小学生レベルの俳句なので紹介は控え

ます)

昔から日本人は旅好きですね。お伊勢参り、善光寺参り、富士講、八十八ヶ所巡り等々。そのほとんどがお参りという目的を持っています。それは日

本人のDNAに刻まれているのでしよう。名所旧跡を巡る旅が中心です。西洋のように旅に出たらなんにもしないって人は少ないかもしれませんね。(あ、夫はそんなタイプだ)

江戸時代には旅行記が大ベストセラーになりました。「東海道中膝栗毛」です。膝栗毛とは自分の膝を馬の代わりに使う徒歩旅行のこと。歩いて旅する弥次さん喜多さんの珍道中がドラマ化され、子どもの頃よく観ていました。

今ほコロナ禍で海外へは行っていませんが、以前は韓国・ソウルに何度か行きました。明洞のホテルに泊まり、ジョギングで宮殿巡りを。韓国歴史ドラマのストーリーを思い浮かべつつ、昌徳宮と昌慶宮の後、景福宮へ。翌日は標高262mの南山へ上ってソウル市内を一望。走り終わったらチムジルバン(日本のお風呂)のような施設)に行ってハンジユンマク(高温サウナ)をたっぷり。石焼ビビンバやチゲ(鍋)でお腹を満たして極楽でした。今年も観光ジョギングを楽しみたいと思います。皆さんも、健やかで幸せにお過ごしください。